

コロナ時代の健康在り方は

東京で弘大などが
COIフォーラム

弘前大学と県、弘前市が主催する「弘前大学COI



「ポストCOI」を発展させ、国内だけでなく世界展開も目指すことを発信したフォーラム

ヘルシーエイジング・インベーションフォーラム2021」が8日、都内で開かれ、オンラインを含む1300人の参加者が「新型コロナウイルス時代」における社会の健康の在り方を考えた。

フォーラムでは弘大COIの中路重之拠点長が「健康プロジェクト未来イノベーション戦略」と題して基調講演。9年の歩みを振り返りながら「ビッグデータを持っているのは市民。地方大学の弘大にもアドバンテージがある」「健診データを活用して「健康弱者」の底上げを図ることは格差解消につながる。つまりSDGs（持続可能な開発目標）の実現を図っている」などと意義を強調した。引き続きビッグデータを

活用した最先端の研究成果紹介、社会実装の活動例などが報告され、弘大COI拠点が目指す「健やかに老

いる社会」へ理解を深めた。中路拠点長は「コロナで健康プロジェクトなどに影響はあった。ただ、オンラ

イン会議の普及で沖縄でも海外でも参加できるといろう、いい側面もある」と語った。
(石黒全)